

令和4年度第1回富津市創生会議 会議録

1 会議の名称	令和4年度第1回富津市創生会議
2 開催日時	令和4年9月21日(水) 午後1時30分～午後3時10分
3 開催場所	富津市役所5階 503・504会議室
4 審議等事項	第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画の 2021年度事業評価について
5 出席者名	富津市創生会議委員(8名) 青木 和彦、青木 一美、岩沢 宏幸、小宮 圭介、 鈴木 敏夫、鈴木 文江、森田 泰彰、山口 拓也 事務局(9名) 市長 高橋 恭市、副市長 小泉 義行、 総務部長 中山 正之、総務部参与 石川 富博、 総務部次長 小川 真司、企画課長 阿部 淳一郎、 企画課企画係長 高橋 亮介、企画課副主査 牧野 圭吾、 企画課主事 松井 大和 事業担当課(41名)
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	1人(定員 5人)
9 所管課	総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

令和4年度第1回富津市創生会議 会議録

発言者	発言内容
事務局	<p>委員の皆様方におかれましては、本日はご多用のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>開会に先立ちまして、本日の会議資料の確認をさせていただきます。着座にて失礼いたします。机上配布させていただいた「会議次第」、「席次表」、「富津市創生会議委員名簿」、「市出席者一覧表」、事前に送付させていただきました「令和4年度第1回富津市創生会議について」、「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画【2021年度事業評価報告書】」、以上が本日の会議資料でございます。資料はお揃いでしょうか。</p> <p>1 開会</p>
事務局	<p>それでは、ただいまから、令和4年度第1回富津市創生会議を開会いたします。</p> <p>はじめに、本日の委員の出席状況を報告させていただきます。11名の委員のうち、島野委員、小泉委員、丸委員におかれましては、本日欠席のご連絡をいただいておりますので、出席委員8名、欠席委員3名でございます。従いまして、富津市創生会議設置要綱第6条第2項の規定により、半数以上のご出席をいただいておりますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>続きまして、会議の公開についてですが、本日1名の傍聴者がおりますことをご報告させていただきます。</p> <p>また、会議録作成のため録音させていただきますのでご了承願います。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、質疑応答の際は着座にてマイクをご使用いただき、都度アルコール消毒を行いますので、係員へ受け渡しいただきますようお願いいたします。</p> <p>2 市長挨拶</p>
事務局	<p>続きまして、開会に当たり高橋市長からご挨拶を申し上げます。</p>
高橋市長	<p>皆様こんにちは。本日は大変お忙しい中、委員の皆様方にはご出席をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>早速ですけど、本日の会議につきましては、「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画の昨年度、2021年度評価について」を議題とさせていただきます。</p> <p>事業報告等について後ほど事務局から説明をさせていただきますが、委員の皆様方におかれましては、今後、私どもが戦略を着実に実行するため様々なご意見をいただきたく、活発なご議論をお願い申し上げますところであります。</p>

この6月議会において、富津市の10年後の姿をしっかりと示そうということで、富津市みらい構想という計画を立てさせていただいています。

そのみらい構想におきまして、総合戦略を優先計画として位置づけており、市民の皆さんにとって、誇りと愛着を持って暮らせるまちとなるように、今後とも市役所一丸となって進めてまいりたいと、そのように考えております。

そうした中、本日、新聞等で地価というのでしょうか、報道がありました。商業地、住宅地ともに富津市は下落だというような報道がされておりまして、非常にショックを受けていると同時に現実をしっかりと見つめなければいけないなというふうに思っています。地価が下がるということは悪いことばかりではないだろうというふうにも考えるわけですが、やはりあの報道を見ると、地価が上がっているというのは地域の活気というようなことにも繋がって、様々な方に影響があるのかなというふうに感じざるを得ないなと思っています。

反面、市内の様々なところに目を移しますと、青堀地区では、いろいろな新しいお店の出店があったり、会社の事務所が建っていたりということを目にするようになりまして、天羽、大佐和地区におきますと、キャンプ場やグランピングというような施設も建ってきて、いろいろなところで富津市が注目されていたり、動きが出てきているなというふうにも感じています。

良いことも、悪いことも、一喜一憂するばかりではなくて、見つめながら、行政として何をやっていくことが今一番大事なんだということをししっかりと捉えられるように、アンテナを高くし、そしてそれらに向けて一つ一つ事業を進めてまいりたいと、そのように考えております。

委員の皆様におきましては、今後とも市政発展にお力添えいただきますようお願い申し上げます。まともなりませんけれども会議冒頭の挨拶といたします。よろしくお願ひいたします。

3 会長挨拶

事務局

続きまして、岩沢会長からご挨拶をお願いします。

岩沢会長

ただいま、ご紹介いただきました会長を務めさせていただいております岩沢と申します。どうぞよろしくお願いします。

コロナの中、先ほど市長からお話があったとおり、私たちが幸せを感じるまちづくりということに行政サービスを通じて邁進していただいております富津市の皆様におかれましては、本当に感謝しております。これからもよろしくお願ひいたします。

また、出席の委員の皆様には、仕事、それから地域において、やはり富津市に対して非常にご尽力いただいているということも、いろいろなところで情報発信していただいていると感じるところです。本当にありがとうございます。

この総合戦略を策定するときに、地域、市民、それから行政がお互いに理解し合い、協力し合うことによって市の抱える課題に対応していくことというのが、目標として掲げられていたかと思います。

やはりこの会議では、そういった趣旨に基づいて、いろいろな意見を交わしながら、より良い富津市が邁進できるように、意見調整の場としてやっていきたいと思っておりますので、是非今日も活発な意見交換をいただければありがたいと思っております。

それと、2年の任期ということで、今月でこのメンバーの任期が終わるということもあるんですが、やはりコロナ禍において、なかなか会議が開けなかったこともありますので、活発な意見を出すということと、これからも富津市のために自ら、それから地域でできることを協力し合いながら富津市を支えていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願ひいたします。

冒頭にあたり簡単ではありますが、挨拶とさせていただきます。今日はよろしくお願ひします。

事務局

ありがとうございます。続きまして、総務部長の中山から事務局の紹介をさせていただきます。

中山総務部長

総務部長の中山です。事務局の紹介をいたします。総務部参与の石川です。総務部次長の小川です。企画課長の阿部です。企画係長の高橋です。企画係の牧野です。同じく松井です。

以上で事務局職員の紹介を終わります。どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局

それでは、ここからは、富津市創生会議設置要綱第6条第1項により、会長に議長となつていただき、進行をお願いします。

岩沢会長、よろしくお願ひします。

岩沢会長

まずはじめに、本日の会議録署名委員を指名させていただきます。小宮委員と森田委員にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

4 議題

第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画の2021年度事業評価について

岩沢会長

それでは、「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画の2021年度事業評価について」を議題といたします。事務局の説明を求めます。

事務局

企画課長の阿部でございます。よろしくお願ひいたします。

私から、議題の「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画の2021年度事業評価について」ご説明申し上げます。着座にて失礼いたします。

資料の冊子をご覧ください。こちらが、第2期総合戦略実行計画の掲載事業について、2021年度の実績・評価を取りまとめた報告書となります。

2ページをお開きください。はじめに、1の「評価の趣旨」についてですが、市では、第2期総合戦略に掲げる施策・事業を、計画的かつ効果的に実行するに当たり、事業の具体的な内容、費用、目標値などの概要を明らかにし、毎年度、その進捗状況や効果を取りまとめ、創生会議や既存の審議会などと連携し、評価、改善を行うことで、次年度以降における予算や事業実施のための具体的な指針とするため、第2期総合戦略実行計画を策定しています。今回は、2021年度に実施した事業について、実績を取りまとめ、今後の取組改善等につなげるため、評価を実施するものであります。

次に、2の「評価の対象」についてですが、第2期総合戦略実行計画(2021年度当初予算版)に掲載している事業としています。

次に、3の「評価の方法」についてですが、第1期総合戦略の施策評価と同様に、成果指標の達成状況を以下のとおり分類し、評価を行っています。Aが達成率100%以上のもの、Bが達成率80%以上100%未満のもの、Cが達成率50%以上80%未満のもの、Dが達成率50%未満のもの、その他が成果指標の達成状況を評価できないもの。これは、成果指標をアンケートによるものとしているが、2021年度にはアンケートを実施していないものや事業の実施予定のなかったものとしています。

次に、4の「成果指標の達成状況及び概要」についてですが、こちらは、各事業で設定している成果指標について、先ほど説明した評価方法による結果を取りまとめたものです。

全部で122の成果指標を設定しており、詳細は記載のとおりでございます。「評価D」の成果指標数が32であり、全体の約4分の1を占める結果となっています。このうち19の成果指標については、「講座・イベント等の開催回数や参加者数など、人の動きに連動する指標を設定しており、2021年度においても、新型コロナウイルス感染症拡大による事業の縮小、中止等があったことから、達成状況に大きく影響しているものと考えられます。

3ページをお開きください。総括的評価として、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により事業を縮小、中止とした事業も多くなる中、達成率80%以上、達成度A及びBの成果指標は前年度より増加となりました。

以下、基本目標1から基本目標4までのそれぞれの達成状況の概要を記載しています。

6ページをお開きください。ここから12ページまでは、事業評価シートの一覧表になっています。事業名、担当課名、ページ番号を記載しています。

14 ページをお開きください。ここからは、基本目標ごとに個別事業の事業評価シートを載せています。事業評価シートには、事業の目的、内容、取組実績、成果、自己評価、次年度以降の取組等を記載しています。

時間の関係もありますので、個別事業全ての説明は省略させていただきますが、昨年度の新規事業等を基本目標ごとにいくつかピックアップしてご紹介いたします。

まず、基本目標1ですが、16 ページ下段の「産前産後ヘルパー派遣事業」をお開きください。

産前産後ヘルパー派遣事業ですが、成果指標の目標値には届いておりませんが、出産に係る不安の軽減を図るために、より多くの方に利用していただけるよう周知をしていくこととしています。

次に、17 ページ上段の「すくすくギフト事業」をお開きください。

こちらは新生児の保護者へ育児用品を定期的にお届けする事業で、多くの方にご利用いただきました。買い物支援や経済的負担を図るため、今後は利用者の声も参考に見直しも行いながら取り組んでいくこととしています。

次に、基本目標2について、43 ページ下段の「基幹相談支援センター事業」をお開きください。

こちらは、障がいのある人やその家族の相談窓口として、必要な支援の情報提供や助言を行うものです。取組実績にも記載のとおり、多くの相談支援を行いました。設置開始年度ということで研修等不十分な点もありましたので、相談支援の質の向上を図っていくこととしています。

次に基本目標3について、52 ページの「民間事業者と連携した移住情報の提供による転入促進」をご覧ください

本年3月に移住定住プロモーション映像を作成しました。このプロモーション映像は、富津市の魅力を発信し、知名度向上、移住定住、観光振興促進につなげるためのもので、現在、YouTubeのほか、東京日本橋室町ちばぎん三井ビルディング1階の大型ディスプレイにて配信しております。また、15秒間に編集した映像を本年7月にはJR東京駅、8月には横浜駅構内にありますデジタルサイネージにて配信いたしました。

次に54ページの「空家バンクの活用による空き家情報の提供・マッチング」についてですが、令和3年度の空家バンク登録につきましては、登録2件、物件の契約、購入が1件ありました。

また、令和2年度に契約、購入され、移住するため空家バンクリフォーム補助金を活用した方が1件ありました。

現在、空家を求めている方に対して提供できる物件が少ないことから、今後とも空家バンクの制度周知を図り、空家の利活用による移住定住促進につなげてまいりたいと考えております。

次に、基本目標4について、58 ページ下段の「ふるさとふつつ応援寄附」をご覧ください。

ふるさとふつつ応援寄附、いわゆるふるさと納税についてですが、富津市の魅力の発信のため、目標5億円に向けて返礼品開発や宣伝広告を行ってまいりました。昨年度は、新たに企業版ふるさと納税の仕組みを活用して、子育て支援関係や生涯学習バスの購入事業、タクシー運賃助

成事業への寄附を募り、多くの企業にご寄附をいただきました。引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

以上で、説明を終わります。

岩沢会長

ありがとうございました。

ただいま、事務局の説明が終わりました。それでははじめに、基本目標1と基本目標2について、ご意見等を伺いたいと思います。資料の14ページから45ページまでとなります。関連部署の方々が来ていらっしゃると思いますので、そのところをメインに話をさせていただきたいと思います。

ご質問等のある方、お願いいたします。

それでは山口委員お願いします。

山口委員

本日もよろしく申し上げます。冒頭にどういう点でコメントするか、はじめに伝えられたらと思うんですが、今日一日通して三つの点を主にコメントしていけたらなと思っています。

まず一つ目が指標に誤りが無いか。基準がずれていると、どうやってもAとかBとかになってしまうので、評価の指標に誤りとか改善の余地が無いかという点が一つ。

二つ目は達成に向けたアイデアということで、こうすればいいんじゃないかというところがあれば、そういうところについてコメントとか意見を言えたらと思います。

最後に事業の必要性ということで、基本的にはどれもやるものかとは思いますが、なかなかそういうことって言いにくいかとも思うので、事業の必要性とか気になったところがあれば言おうと思っています。

ということで早速本題なんですが、14ページの「ふつつ子育てきずなLINE配信事業」に関してです。こちらに関しては、評価の指標に誤りが無いか、成果指標についてコメントできたらと思います。私自身もLINEの運用とかしているんですが、LINEの運用において指標にすることが、どれだけ登録したかではなくて、どれだけの人が見ているかというところを結構指標にすることがあります。なので、ここは登録者ではなくて、どれだけ読まれているかみたいところ、普及率とか閲覧率はどうなのかというところをお聞きしたいです。

あともう一つは、登録者数が減っていますが、出生者数はどうだったんだろうと思ひまして。妊娠、子育てする人数自体が減っていれば、もちろん登録は減ると思うので、実際の登録率はどの程度だったのかをお伺いできたらと思います。

子育て支援課

はじめに、指標に誤りが無いかという点についてですが、誤りはございません。妊娠期については、出生数のご質問もありましたが、昨年度は年間135名の出生数でした。近年は150人程度で推移していますので、目標値としては、妊娠期については150人を目標値に設定しています。子育て期については、年間150人程度で出生数が推移しておりまして、3歳までメッセージを受け取ることができるので、その3年間分として

目標値は450人を設定しています。ここに書かれています登録者数については、3月末時点の登録者数を掲載しています。

どのくらいの方に読まれているかという購読率については、アンケート調査の結果が出ておまして、妊娠期については、「届いたら必ず読む」というのが100%の回答でした。子育て期についても、「どのくらいの頻度で読んでいますか」という問いに対して、「届いたら必ず読む」が76.2%、「2回に1回くらいの割合で読む」が4.8%、「興味がありそうな内容の時だけ読む」が19%という回答で、登録していただいた方の大半の方については読んでいただけていると考えています。

山口委員

ありがとうございます。最後に気になったところが、アンケート実施については、こういった形でアンケートを採ったんでしょうか。

子育て支援課

きずなLINEを登録している方に、LINE上でアンケートを流しまして、そちらに回答していただくという形です。

山口委員

それだと離脱している人は絶対アンケートに答えられないと思うんですね。アンケートって見る前提で、LINEをブロックしている人は回答できないじゃないですか。なので、アンケート協力してくださいって届いた人って基本見ている人だけになるので、アンケート結果にずれが出てきてしまうのかなと思ったところです。ただ、それをしてしまうとなかなかアンケート採りにくいというところでもあると思います。生後100日まで毎日配信は結構多いと思ったので、ブロック率を見ていって、ブロック率が高ければ、それは読むのを辞めている人も多いということなので、そういったところも見ながら運用を上手くやっていったらいいのではないのでしょうか。

岩沢会長

ありがとうございました。その他の委員はいかがでしょうか。青木和彦委員をお願いします。

青木（和）委員

ちょっと視点が違ってしまいかもしれないですけども、私は今回これを見させていただいて、市内では、かなり子育て世帯に向けたいろんな政策を工夫されているなどあらためて感じました。

特にですね、3歳児以下に対しての保育料無償化等、他市に無いものも取り組んでいるかと思います。

この多岐に渡った事業ですけども、こういう素晴らしい事業をやっているにも関わらず、やっぱり例えば子育て世代は増えていかないとか、そういったこともあると思うんですね。ですから、例えば、これは移住の関係にも関わってくると思うんですけども、やっぱり子育てをする世代の方が如何に富津市に住んでもらうのか、そういうことを考えると、もう少し違った事に取り組まなきゃいけないのかなとちょっと感じたところです。

実現できるかどうかわかりませんが、単純に私が思ったのは、保育所は0、1、2歳については所得に応じて保育料が掛かっています。

3歳児以降は無償化になっています。これは他市も同じだと思いますけども、単純に0、1、2歳を無償化したらどうなるか。それも、例えばその子たちは必ず富津市に住所が無いとそうならない。

そういったことをすると、もしかしたら人口が増えて、子育て世帯が増えていくことに繋がるのかなっていうことをちょっと考えたところです。これは本当に財源の問題等があるので、大変難しい部分があるかと思えますけども、今こちらに載っている事業等は、本当に素晴らしい事業をされているな、ただ、何か視点を変えていかないと、もう少し違ったところに繋がっていかないのかなと思ったので、意見を言わせていただきました。以上です。

岩沢会長

ありがとうございました。これは意見ということでよろしいですか。

青木（和）委員

はい。

高橋市長

青木委員ありがとうございます。

ご指摘のとおりであるというふうに私、もちろん職員も感じていることではないかなと思っています。今まで様々な施策を子育てに関して積み上げてきておりますけれども、やはり少し規模の小さいというか、インパクトが小さいものを一つ一つ積み重ねることによって、子育て世帯を支援していこうということに頑張らせていただいているつもりでおりますけども、やはり全国的にも、先ほどご意見の中で触れていただいた保育料の無償化であったり、医療費の無償化であったり、給食費の無償化であったりというようなところに非常に子育て世帯の方が注目されていると認識をしております。

しかしながら、やはり行政にとりまして、財布が一つだというような中で、やはり大きな財源を必要とするものに取り組む時には、何らかのもっと大きな覚悟をしっかりと市民の皆さんに示した中で取り組んでいく必要があると、そういう課題であるというふうに思っています。

しかし、そういうところに努力をしていかないとですね、やはりこの世代には大きく響かないというのも正直感じているところであります。今後の中ですね、財源の確保であったり、また効率的な取り組みであったり、様々なことを考えながら、何とかそういう世代の人に普通にまず注目していただけるように、そして選んでいただけるように努力を続けてまいりたいと、そのように考えております。

貴重なご意見ありがとうございました。

岩沢会長

ありがとうございました。

鈴木文江委員お願いします。

鈴木（文）委員

先ほど産前産後ヘルパー派遣事業というのをお話伺いました。結果というか、成果はちょっとあんまりよろしくないようですけれども、具体的にコロナ禍だったので訪問されるのを躊躇していたかわかりませんが、どの程度どんなふうに行われているのかお聞きしたいと思います。

子育て支援課	<p>産前産後ヘルパー派遣事業につきましては、令和3年9月から始まった事業でございまして、年度の途中の開始ということもありまして、利用者が少し少ないような状況になっております。</p> <p>今はコロナの関係もありまして、里帰りができないような方も増えていらっしゃると思いますので、そういった方の支援というものも踏まえまして、この事業を開始させていただいております。</p> <p>母子手帳の交付の時ですとか、出生の手続きにお見えになった際に、この事業のご案内をさせていただいて周知をしております。</p> <p>問い合わせは何件かあるんですけども、家族の中でやりくりができてしまったとか、そういったご事情で実際には利用に結び付いていないケースもあるんですけども、サポートが必要な方には引き続き支援をしていきたいと思っております。</p>
鈴木（文）委員	<p>令和3年からと仰いましたけれども、その前はこういうのはやっていなかったのでしょうか。</p>
子育て支援課	<p>はい。令和3年に始めた事業でして、それ以前はこういった事業は実施しておりませんでした。</p>
鈴木（文）委員	<p>以前もちょっと伺ったかと思えますけど、きずな LINE に入られていらっしゃる方に、例えば子育ての手法、沐浴の仕方とかを動画で配信しているっていうのはありますか。</p>
子育て支援課	<p>動画の配信は現状できておりません。コロナの影響もありまして、産院の方でも両親学級を中止しているような産院もあるというようなお話も聞いておりますので、今後配信できるように検討していきたいと思っております。</p>
鈴木（文）委員	<p>本当に今の若い方は、できないことは何でも LINE 等で検索したりして調べる方が多いので、いらっしゃるいただくのは躊躇しても、LINE で、動画で出ていたら皆さん助かるんじゃないかなと思いました。</p>
岩沢会長	<p>ありがとうございました。 小宮委員お願いいたします。</p>
小宮委員	<p>私の方は、この基本目標1の項目について、赤ちゃんの育児世代については、非常に市の方の努力とアイデアによってすごく拡充しているイメージを持っております。その中で、赤ちゃんとか幼児期ではなくて、小学校に就学している児童に対する件で質問させていただきたいんですが、19ページのところですね。</p>
	<p>放課後児童クラブの充実という項目で、施設数や定員数に対する目標ということで目標設定されているんですけども、施設数で言えば9施設ということで目標達成していると。そして、定員数にしても目標を上回</p>

る定員数を確保されているという状況だと思うんですけども、実際の施設の稼働状況というか、利用状況がどうなっているのか。あと、児童クラブのこの数で足りているのか、もっとニーズがあるのではないかといいたところで思っております、実際、弊行なんかでもやっぱりこの世代のお子さんを預けるところが無い、特に低学年ですね、心配だということで、なかなか特に女性の方が働きづらいという意見を結構聞くところなんですね。幼児期については、保育所とかそういったところの民間も含めて、拡充されてはきているので、解消されてきているんですけども、この低学年の児童クラブの拡充というのは結構市民の方にとってはもっとニーズがあるのではないかなと。

ただ、当然これは補助金事業になってきますので、予算等財政の絡みも大きく出てきちゃうと思うんですけども、この辺りいかがなのかと思いますので、教えていただきたいと思います。

子育て支援課

放課後児童クラブの施設の稼働の質問に対してなんですけれども、現在9クラブで、クラブの中にですね、学校でいうクラスみたいなもので支援と呼んでいるんですけども、9クラブで12支援の単位を令和3年度は実施しております。

学校から各クラブまでの送迎を行うクラブもありまして、そういった支援で全小学校区をカバーできているような形になっております。

クラブは足りているのかというご質問に対してなんですけれども、今現在、放課後児童クラブの待機児童というのは発生しておりません。

引き続き、保護者の方が放課後児童クラブに預けやすいように市としてもクラブの支援を充実してまいりたいというふうに考えております。

岩沢会長

ありがとうございました。
青木一美委員お願いします。

青木（一）委員

23 ページの電子母子手帳の活用というところで、2021 年度だと新規登録者数が減ってしまったようではありますが、すごくいいなと私自身個人的に思っていて、ただ、スマホが故障してしまったり、データが飛んでしまった時にどうなるのかなってちょっと不安に思ったんですけど、マイナンバーとかでリンクされているんでしょうか。教えてほしいです。

健康づくり課

内部的な仕掛けについては、熟知していない部分がありますので、業者の方に確認いたしまして、ご回答をあらためてさせていただきます。

【回答追記】

バックアップ機能を有しているので回復することができます。もしアカウントなどを亡失した場合でもサポートセンターに問い合わせいただければ、ほとんどの場合で対応が可能です。

なお、登録者を増やすため、引き続き母子手帳交付時や出生届出時などで紹介するとともに、乳幼児健診来場の際にも紹介するなど啓発に努めていきたいと考えています。

岩沢会長

山口委員お願いします。

山口委員

事業の方向性のところで子育て支援課へ質問します。事業全般を見ていて、どちらかというとなんかやっぱり妊娠、出産に重きを置かれていると思うんですが、子育てって中学生と高校生を含めて子育てだと思いませんか。なので、中学生向けの子育て支援とかってというのは、ぱっと見た形あんまり見当たらず、今後考えている事とか、こういうことを小学校高学年、中学生向けにやっているとか、そういうのがあれば聞きたいんですが、そういった施策はいかがでしょうか。現状やっていることとかを教えていただければと思います。

子育て支援課

中学生向けの支援につきましては、子供医療費の助成の対象になっておりますので、市民税の所得割が課税されている世帯は1回200円、その他の世帯については全て無料で受診できるような制度になっております。

制度の充実につきましては、他の先進自治体を参考に調査研究してまいりたいと思っております。

山口委員

ありがとうございます。ちょっと意見なんですけれども、出産、妊娠は既に充実しているのと、出生者数130人に対してこれ以上予算を掛けたら、お金を掛け過ぎだと思うんですね。

逆に中学、高校とかを手厚くすれば、中学生のお子さんを持っている人が転入しやすくなるとか、意外と中学、高校の人が転出してしまいがちなんです。進学とか、そういう時に。

すごいお金をかけて妊娠、出産期にサポートして、中学校上がる時に出ていってしまつてというのは、正直ちょっとビジネス的にもったいないなという印象があるので、中学、高校ずっと住み続けても子育てしやすいとなるような形になるとすごくいいんじゃないかなと思った次第です。

岩沢会長

今のは意見という形ですね。

山口委員

はい。最後のは意見です。

岩沢会長

当初、人口の関係の話をされたときに、富津市は中学、高校の時の転出よりも、高校終わった後の転出が超過しているということがあったんですけど、今の話で、そういった事象も最近増えてるとかっていうのはあるんですか。人口の増減の関係で。認識はやっぱり高校卒業時に転出が多いという形でのよろしいんですかね。

高橋市長

大変申し訳ありませんけれども、はっきりとした数字で中学卒業時に多くのお子さん、ご家族が転出されているというような、そういう大きな数字は把握しておりません。

やはり最も高校卒業時に進学、就職で富津市を離れるという方が数多くいらっしゃる。そして男性に関しては、人口ビジョン等々で20代前半で一度戻ってきていただけるピーク、山があるというふうに把握しておりますけども、女性になかなかその山が訪れてこないということが一つ人口に対しての富津市の大きな課題だろうというふうに感じております。

また、中学生に対しての支援ということでありましたけれども、現在まで個人的なものではありませんけども、学校、教育現場ですね、環境の充実等々で務めさせていただいております。富津市に関しては、多くの方は市内の小中学校に進まれるお子さんが多いということですので、そういうものの充実もやはり子育て支援に繋がっていくだろうということで、具体的な例を申し上げますと、近隣市よりも少しだけ早く全ての教室のエアコンの設置であったりですね、また、昨年度は全ての学校のトイレの洋式化、これに関しては、学校のトイレというのが100%洋式化するとですね、やはり洋式を嫌がるお子さんがいたり、様々な課題があるということなので、現場と協議をさせていただいて、現場の必要数というものに関しては、全て洋式化できているというふうに捉えております。

今後も、そういう小中学生の世代ダイレクトの支援が必要なのか、それともやはり環境を充実させていくのか等々は学校現場とも協議をしながら、しっかりと行政として考えていきたいなというふうに考えております。

岩沢会長

ありがとうございます。その他の委員の方、ご質問等ございませんでしょうか。

鈴木副会長何かございませんか。

鈴木副会長

やはりいろいろな事業を行って、人口増になかなか繋がっていかないのは重々承知しております。これだけの数多くの事業をコツコツとやっていくのが一番いいのかなと。ただ、せっかく作られている事業、ましてや、お金がもらえる、補助をもらえるところの率がちょっと上がらないところがあったりするのはいちよっともったいないと思います。やっぱり情報の提供の仕方とか、そういったところが何かあるのかなと思っております。

富津市の取り組んでいる事業は素晴らしいなと思いますので、是非引き続き継続していただければと思います。

岩沢会長

ありがとうございます。その他の委員の方はよろしいでしょうか。

私の方から一点教えていただきたいんですが、今年の追加事業の中に、確か前回の会議の説明の中で、図書の推進活動という形で、図書費を増額するって話があったかと思うんですけど、それについては、どういう状況でしょうか。年度途中かもしれないんですけど、それはどのように推進されているのか教えていただければと思います。

学校教育課	<p>図書活動の推進ということで、今年度6月より読書支援員を各小中学校に週1回、4時間ですが、配置をしまして、子供たちの読み聞かせですとか、または図書室の環境を整えるというようなことを推進しております。また、独自に教育委員会の方で、5の付く日を「読書の日」ということで、市内全体に機運が上がるように活動を進めております。</p>
岩沢会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>図書館の整備事業が始まりますし、図書の必要性というのも再認識されているみたいですので、ぜひ推進していただけるとありがたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>その他委員の方はよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、基本目標1、2についての質疑応答を終わらせていただきたいと思います。</p> <p>ここで休憩に入ります。14時30分から再開します。</p> <p>－休憩－</p>
岩沢会長	<p>それでは、会議を再開します。</p> <p>それでは、基本目標3と基本目標4について、ご意見等をお伺いします。資料では48ページから71ページまでとなります。ご意見等ございましたら、お願いいたします。</p> <p>森田委員お願いします。</p>
森田委員	<p>60ページ、61ページの農業のことについてなんですけど、これは全部に関わることで、やっぱり富津市の農地が、荒廃していく農地が増えていくっていうところがあって、このところ、農水省の農地ナビをよく見ていまして、富津市の状況はどうなんだろうと。航空写真と一緒に一筆ごと調査した結果が出ているんですけど、農地が全部荒れてしまって森林というか雑種地みたいになっている農地のところにも農振が掛かっていたりするんですけど、農振というのはいつ策定したんでしょうか？</p>
農林水産課	<p>現在の富津市農業振興地域整備計画につきましては、平成29年4月に策定されたものになっております。</p>
森田委員	<p>そうだとすると、29年からだと5年。5年前には荒れていたであろう場所も農振として策定されているんですけど、そこは農業が振興できるような土地ではないと思うんですけど、29年時点では、そこは農振だというふうに策定した理由を聞きたいです。</p>
農林水産課	<p>平成28年度まで調査を行っておりまして、農業委員の方、それと農業委員会事務局、当時は農林水産課もですけども、年に1回、農地のパトロールを実施しておりました。その中で、いわゆる農用地として、農地として利用すべき土地であるというふうに判断をされて、当時計画を策定されたものと認識しています。</p>

森田委員

はい。僕も農業委員と一緒にパトロールに行っているのですが、その時に、ここら辺一带荒れていてダメだろうという話をしている場所もそのまま農振のままになっていたりもするんですけど、頑なに変えない理由を聞きたいです。

というのも、そこが転用もできないで、荒れ地のままというふうになってしまうから、農産物の被害とか、イノシシの住処になってしまう。新規就農を目指す時に農振農用地だと下限面積が5反以上ないと就農できない。農振以外の場所だったら1反から就農できるようなところもある。広大な場所の1箇所、2箇所が荒れているようであれば、まだ農振として使えるんでしょうけど、一帯で荒れているような農地が未だに農振が掛かっているというところが、富津市の農業にとってもあまりいいことではないんじゃないかなというふうに思うんですが、いかがでしょう。

農林水産課

今、委員が仰られたように、富津市の農業、これは富津市に限ったことではありませんけれども、農業従事者の高齢化等を初めとして様々な課題に直面している状況です。

その中で農地、いわゆる農用地ですね。農用地の利用につきましては、手続きを踏めば、いわゆる除外をすることも可能になりますけれども、一旦そこが除外されて別の農業用以外の土地として供されるようになりますと、なかなかそこからまた農地に復旧するというのは事実上できないというふうに考えています。

原則として、農地として利用していただくというのを市の方では考えていまして、その中でも、作付あるいは農地として利用することが困難と思われる場所につきましては、農業委員会とパトロールを行ったりした上で、次回の見直しの際には、そういったところを勘案して整備計画を策定していくべきと考えています。

森田委員

継続してやっていくのが行政の役目というのはよくわかっていて、確かに農地以外のものになるとなかなか後戻りはできないでしょうけど、ただ、現状とあまりにも乖離している農地が多すぎて、そのままにしておくと、多分ずっとそのままだと思うんですよ。先が見えないというか、環境が悪くなったその場所をあらためて再生して、農業をやりたいって人は多分出てこないと思います。

僕も農業委員の任期がまだあるので、一緒にパトロールに行った時に、ここら辺一带はやっぱりダメだから、なるべく転用しやすいように、もしくは、そこの中でも少しでも使える農地があれば、1反から農業が始められるように、転用までしなかったとしても、農振を抜くだけでいろいろなアイデアや1反にハードルを下げた効果が出てくるんじゃないかと思うんですよね。僕も一生懸命パトロールして、アドバイスというか一緒にやっていこうと思うので、それを行政の方も前向きに、実情に合ったように変えていくということを考えていただきたいと思います。

岩沢会長	最後のは要望も含めてということによろしいでしょうか。
森田委員	はい。
岩沢会長	他の方はいらっしゃいますか。 青木和彦委員お願いします。
青木（和）委員	52 ページの移住・定住促進事業というところですけども、お伺いしたいのは、昨年度は金谷地区で企業が1社、それから20代の方が単身で来られたという、移住は1人と1件ということによろしいでしょうか。
移住定住推進室	こちらの数字ですけど、地域おこし協力隊において空き家の紹介をしてくださる、金谷地区の空き家を利用されたのが2件ありまして、企業が二居住ということでサテライトオフィスを始めた1件と、もう1名は神奈川県から来られた方が空き家を活用されたというところです。
青木（和）委員	移住定住プロモーション映像ですね、先ほどもいろいろなところでなされているということでもありますけども、Youtube再生回数は700回というところで、とても少ないというふうに思っています。もっともっと、例えばですね、そのプロモーション映像を流す場所を広げるとか、そういった予定は考えていますか。
移住定住推進室	こちらのプロモーション映像ですけど、東京日本橋にある千葉銀行室町の大型ディスプレイにて、4月1日から通年、3月31日まで放送するものと、その他、有楽町にあります移住希望者が多く訪れるふるさと回帰支援センターというのをごさいますて、そちらの移住相談の際に、富津市のこのPR映像を紹介していただくこと、また、今後、移住プロモーションのフェアということで、今週日曜日に東京国際フォーラムで全国の移住団体が集まるフェアがありまして、そちらで流します。 今後、そういった移住のフェアが実施された際には、会場で流させていただきますということを予定しております。
岩沢会長	よろしいですか。 山口委員お願いします。
山口委員	ページ数がいくつかのところに書いてある、ふつつの魅力発信事業の部分ですね。自分が開いているのは64ページになります。 秘書広報課、商工観光課になると思うんですが、成果指標について今回はフォロワー数にしているんですが、自分自身がSNSアカウントの運用をする時に、もちろんフォロワー数も目標に入れるんですが、それとは別に口コミ数などを計測するようにしているんですね。当たり前ですが、そのアカウントのフォロワー数が少なくても、テレビにたくさん出るとか、いろいろな人が富津のことを発信していれば、知名度を上げ

	<p>ることはできるので、この口コミ数とかの把握はされているのかとか、実際インスタグラムや Twitter で富津のことを発信している人がどの程度いるのかとか聞けたらと思うんですが、そちらはいかがでしょうか。</p>
秘書広報課	<p>秘書広報課につきましては、LINE、Twitter、フェイスブックを活用していますけども、口コミ数は把握してございません。</p> <p>今後はそういったことを検討課題として取り組んでいきたいと思っております。</p>
商工観光課	<p>商工観光課では、インスタグラムの運用を行っております。秘書広報課と同じようにフォロワー数については、日々確認しているところですが、口コミ数等々については把握しておりません。</p>
山口委員	<p>ちょっと一応簡単に、どう口コミ数を把握するかということなんですが、インスタグラムだと「# (ハッシュタグ) 富津市」とか、「# 富津市フォトコン」とか、「#」における投稿数などを見ることで、たくさん発信しているかがわかります。あとは、投稿に対する「いいね数」で判断するという手段もあります。</p> <p>Twitter に関しても、「#」でツイートしている人がどれだけいるかを計測しています。</p> <p>こういうのは正直難しいと思うので、なるべく SNS とかのツール活用に関しては、あえて知見のある業者を入れて、特に計測の部分や目標の設定に関しては、市だけではなく、トレンドを掴んでいる事業者をうまく公募していくのがいいんじゃないかと思っている次第です。これは意見です。</p> <p>最後にもう一つ意見で言うと、時代はもう TikTok に移っているので、Twitter、インスタグラムだけでなく、そろそろ TikTok を始めなければいけないというのが今後成果指標として考えなければいけないことかなと思います。</p>
岩沢会長	<p>提案ということでよろしいですね。</p> <p>今の関係ですらね、ちょっとフォロワー数とかそういったのもあるんですけど、実際リアルに電話照会だとか、部署にかかってくるだとか、そういった件数は把握されてるんですかね。定住促進なんかになると。</p>
移住定住推進室	<p>移住の問い合わせの件数につきまして、空家バンクについては相談件数を確認しているところです。令和3年度は70件ありまして、令和4年度は半年間で55件ということで、空家バンクの関係は確認をしております。</p>
岩沢会長	<p>実際に移住促進するためには、やっぱりそういったリアルなところもわかんないと、やはり実際の数字には結びつかないと思いますので、その辺りの把握ですとか、効果、要はインスタだとかその辺も含めて把握された方がいいのかなと思いますので、よろしくお願いします。</p>

他の委員の方いらっしゃいませんか。
鈴木文江委員お願いいたします。

鈴木（文）委員

51 ページの鳥獣対策事業のところなんですけれども、市民生活における有害鳥獣対策の推進を図るとありますが、現在どのような対策をされているのかお聞きしたいです。

日に日に増えておりますし、私は竹岡なんですけれども、今日もお彼岸で、お寺なのでお墓参りに見えますよね。お墓にお供え物をすると同時にもうサルが上から狙ってしまっていて、すぐ本堂の屋根に上がっていて、本堂の屋根ってそこへ行くまでの間にお墓参りをする皆さんに出くわすわけですね。幸いに、わざわざあげている方はまだいないので、持っているものを襲ってくるとことはまだないようなんですが、それを例えばお参りに来た方が遮るようなことをしたら、起こるだろうなと思います。置きっぱなしのものにはやっぱりそこへ来ますので、サルに関してはそうなんですけども、猪、鹿ですね。これもだいぶ増えてきて、直接出くわして何かって言うよりは、山にダニとヒルが大分増えまして、山を素人ながらも草を刈ったりとか入るんですけども、もう本当に見事にダニだらけになるのがびっくりして、怖い感じなんですけど、この対策ってどんなふうにしていったらいいのか教えていただきたいのと、今どんなふうに対策をしているのか聞きたいです。

鳥獣対策室

鳥獣被害に対することなんですけども、今言われたサルとかイノシシはほぼ全域で出ている状況です。最近では大佐和地区にもサルの群れの目撃情報等が入っている状況で、どんどんそれが北上するのが心配、懸念になっております。

対策としましては、捕獲従事者というのが市内で110名程いるんですけども、その方が駆除しているというのが今までの対策でした。それだけですと、当然なかなか撲滅はできないので、やはりこれからは地域の方、あとは市役所、行政と一緒にやって対策をしていかないと、なかなか被害は減らないと考えております。

今まではやっていなかったんですけども、今年度から専門家を入れて、それぞれの地域が全然違うと思いますので、それを少しずつ進めていきたいということで、地域との話し合いで、その地域に合った対策を作っていくということを考えております。それによって、獣害に強い集落づくりを今後進めていきたいと考えております。

今現状でサルやイノシシが出た場合は、お電話をいただいて駆除する方、猟友会に連絡をして現地に行き、駆除できる状態であれば駆除し、人に被害を与えるような状況であれば、安全安心メール等で周知している状況です。

ただ、やはり連絡が来て、すぐに行ってもいない場合がありますので、なかなかすぐ対応できるのは難しい状況ではあります。

鈴木（文）委員

わかります。サルは最近ではなく、私に来てからなので30年くらいは経つと思います。今更サルが来たからと連絡して、安全安心メールでっ

ていうような、もうそういう時期じゃないんですね、うちの方は。イノシシ、シカに関しては、農家の方たちは鉄の柵のようなものを市にお願いすると、それを自分たちで立てておりますけれども、一般市民の方の家にはそれは無いので、結局、田んぼとか畑の方は防げて、あと通りやすい所を歩いて皆さんが住んでいる人家に入っちゃっているんですね。現実に境内にも入ってきていますし、それをですね、今電話してどうっていうんじゃないかと、それを具体的にこれからどういうふうにしていくか、それの具体的な対策は、もう前から出てきているものなので、何かの考えはあるんじゃないかと思っていますけれども、ないんですか。

鳥獣対策室

鳥獣に関しては以前から被害が出ているという状況なんですけども、まずは鳥獣が住みにくい環境を作ることが大事だと思っています。

市街地に出るにしろ、山間の草刈りをして、耕作放棄地とかの草刈りをするとか、そういうものをやると人里には降りて来づらくなるというようなことをプロのアドバイスも聞きながら。

鈴木（文）委員

そのプロのアドバイスはどこで聞けるんですか。私達が住んでいる皆さんのところにも出てきているものなので、その地域にプロの方が来てアドバイスしてくださるのでしょうか。

鳥獣対策室

専門家のアドバイスを聞きながらということなんですけども、富津市にはいろいろな地域があって、1回に全部アドバイスとか地域の方とかとの話し合いをして原因を追究するのはなかなかできないので、今年度に関しては、2地区もしくは3地区を考えていますが、まだ場所に関しては決まっていない状況です。

ただ、市内のところだと調査をしまして、田んぼとか畑に囲った柵がちゃんと維持管理できているのか、あとは草刈りができていてイノシシやシカが来づらい状況になっている地域なのか、それがやっていなければ、そういうところをまず改善していこうというようなことを今後進めていきたい。なるべく地区はどんどん増やしていきたいですけども、やはり費用も掛かりますので、年間2地区から3地区を進めて、それを広げていきたいと考えています。

鈴木（文）委員

それでは間に合いませんよね。農家の人は農家の人なりの処置の仕方があると思うんですけど、一般の市民はどうしたらいいんでしょうっていう感じなんですね。やっぱりちょっと笑っちゃうかもしれないけども、うちの方の地区は草刈り等でみんなが集まった後に配られるのがロケット花火なんです。サルが来たらとりあえずこれを打って、追っ払ってくださいっていうことなんですけど、それを何年もやり続けているんですけど、これで対策し続けてくださいってことでしょうか。

鳥獣対策室

ロケット花火の件ですけども、これは昨年度から初めて花火を配りはじめて、地域の方からもっとあった方が有効的だということで、今年は増やして配布をしました。あと、去年では花火のやり方を区長に説明し

たんですけども、今年度はそういう方法とか、どうやって花火を使ったらいんだとか、どうやって獣害の対策をしていったらいいかというのを、さっき地域に固定したプロのアドバイザーの話し合い、会議をやると言ったんですけども、そういう全般的な研修的なことも考えていますので、そういう機会がある時には是非参加していただいて、個人でやるのではなくて、まとまった集落でのやり方とかを実行していただければと思います。

鈴木（文）委員

皆で花火を一斉にですね。

鳥獣対策室

皆さんでサルを追い払う方向を決めないと、サルは散らばってしまいますので、理想的にはそういうやり方が有効的だというふうに思っています。

鈴木（文）委員

サルの動きを見ているとそれが有効かどうかよくわからないんですけど、とにかく本当に今生活の中にサル、イノシシ、シカを危険に感じながら生きている市民がいることを考えてください。それをお願いしたいです。

岩沢会長

多分鈴木委員からは、抜本的なことも少し考えながらやっていっていただきたいということだと思いますので、そちらの方も考えていただくと。地域でやるのが大切だと思いますので、それはしっかりと進めていっていただきたいなと思います。

それとさっき森田委員の話にもあったんですけど、やはり原因はそこだけじゃなくてやっぱり放棄地が多くなっていて、動物が住みやすい環境が拡大しているということも繋がっていると思いますので、さっきの農振農地などの関係も含めてですね、その放棄地、これから高齢者で今でも辞めたがっている人がいっぱいいる地域がいっぱいあると思うんですね。そういった対策もしていかないと、また放棄地が増えて、要は鳥獣の住む地域が増えるという悪循環に陥っちゃうので、その辺りですね、鳥獣対策だけじゃなくて、あるいは農地だとか環境だとかを合わせて考えていっていただかないと、さっきの抜本的な解決の方には向いていかないのかなと思うので、そこは市の中で協力体制を敷いていただくとありがたいかなと思います。

高橋市長

鈴木委員から生活の中での痛みのお話を聞かせていただいたと思っています。私どもも多くが市内に居住している、それが職員でありますので、それぞれの生活の中でも同じ思いをしている人間がたくさんおります。私は地域的に実体験としてはあまり経験がありませんけども、毎年いろんな機会に同じような言葉を頂戴しています。

私自身も千葉県市長会の役職の振り分けで、県の駆除の会議等に出させていただくことがあるんですけども、一生懸命私どもだけではなくて、県も含めて解決に向けて取り組んでおりますけども、非常に申し上げにくいんですけども、現状抜本的なですね、今の有害鳥獣を完全に駆除し

ようというような状況にまだまだ至っていないというふうに考えています。

市としてはこれまで括り罫の許可をしたりですね、箱罫の設置の数等も増やしたりと、また、先ほど申し上げたようにメッシュネットの配布というのをさせていただいております。

しかしながら、農業に対しての保護というか、防除、防御ということでありまして、やっぱり生活圏域に関して、いろいろな目撃情報であったり、または直接ケガをされたというような被害状況もあがっていますので、実は有害鳥獣対策室はそのために、生活地だから、農地だからということではなくて、担当として取り組もうということ数年前に立ち上げている担当であります。

今後も、しっかりと現場の状況を見させていただきながら、あきらめずに取り組んでいきたいというふうに思っておりますけれども、同時に先ほど担当がお話しました、有害鳥獣が発生しない、来ないような対策というの、やはり地域の皆さんそれぞれにもお願いしたいというふうに考えているところです。

私は元々金谷なんですけれども、金谷は山から海にすぐに繋がってる地形です。海のすぐそばにもイノシシが何年も発生していると。その原因、スタートというのが、やはりゴミの捨て場を荒らしたというところがエサに繋がったというようなことも地元の方からお聞きしています。

そういう点でもですね、是非皆さんの協力もいただきながら、市全体で何とか出没する数を減らしていく。どうしても富津市だけ頑張っても隣にいる、移ってしまうとなかなか市境にバリアがあるわけではありませんので、そういう意味でも非常に難しい課題だというふうに思っておりますけれども、多くの地域の皆さんにそういう痛みがあることは、担当はもちろん承知しておりますし、私どもの耳にも入っています。

今後も有害鳥獣の対策というのは、富津市の大きな課題として考えてまいりたいと思っております。貴重なご意見いただきまして、どうもありがとうございます。

鈴木（文）委員

ぜひよろしくどうぞお願いいたします。

岩沢会長

時間の関係もありますので、最後に是非これだけは聞きたいという委員はいらっしゃいますか。

森田委員お願いします。

森田委員

なんだか富津市の農民のせいで鳥獣まで増えてしまっているようで。でも、実際的にいわゆるパワー、富津市の農地に対してのプレイヤーというか、農業のパワーはそこまで全部面倒を見切れるほどは多分無いんですよ。

だとすると、さっき言ったみたいに実情に合ったように変えていって、例えばやっぱり緩衝地帯が無いので山と民家がすぐそこ。今までだったら山の下に農地があって、そこから民家だったりしたんだけど、そこから獣たちが降りてきたり、逆に言うと、山の下だったりするとやりづら

い農地だったりするので、そういうところを例えば農地から除外して他のものにやっていったりとか、駐車場にしたりとか、太陽光やってみたりとか、そういうふうにして少しでも境ができてくれば徐々に減っていく。

抜本的な解決策が無いっていうのは市長が言ったとおりだと思うんですけど、やっぱり山と里との境を何とか作っていくということが大事だと思っているので、僕たちもプレーヤーとしてやれるだけのことは農地はやるんですけど、それ以外の方は実情に合ったことを行政と一緒に改善していくってことじゃないかなと思います。なので、僕たちもやるので行政の方もよろしく願いいたします。以上意見です。

岩沢会長

いろいろ協力してやっていただけるということですので、是非いろいろなアイデアを出していただければ、そして実行していただければありがたいと思いますのでよろしく願いいたします。

時間となりましたので、「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画の2021年度事業評価について」を終了いたします。

5 その他

岩沢会長

それでは、本日の議題については全て終了しましたが、その他として委員の皆様から何かございますか。

委員

ー特に無しー

岩沢会長

事務局から何かありますか。

事務局

特にありません。

岩沢会長

それでは、以上をもちまして、全ての議事を終了とさせていただきます。本日の会議内容は、会議録の確定をもって、取りまとめとさせていただきますので、ご了承ください。円滑な議事進行にご協力を頂き、誠にありがとうございました。

それでは、進行を事務局に戻します。

6 閉会

事務局

ありがとうございました。

閉会に当たりまして、小泉副市長からご挨拶申し上げます。

小泉副市長

私から御礼のご挨拶を申し上げます。長時間にわたりまして、活発な議論、多くのご意見等をいただきまして、ありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましては、この9月末をもって任期が満了となります。本日がこの任期における最後の創生会議となります。令和

事務局

2年10月から2年間、様々なご意見をいただきましたことを重ねて御礼申し上げます。ありがとうございます。

会議冒頭に市長から申し上げましたが、今年6月に「富津市みらい構想」を策定いたしました。市が目指す10年後の将来像をお示したところでございます。その将来像の実現に向けまして、市民の皆様とともに取り組んでまいりますので、委員の皆様方には任期が満了となりますが、引き続き、市政発展のためご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

以上で、私から御礼のご挨拶とさせていただきます。2年間ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和4年度第1回富津市創生会議を終了いたします。ありがとうございました。

(終了時刻 午後3時10分)

以上